

●利用者6● 72歳 女性【利用拒否・老々介護のレスパイト】

- ✓強いサービス利用拒否のある要介護者とも、通い・泊まり・訪問を一体的に提供できることでなじみの関係を作りやすい
- ✓老々介護の夫の介護負担を軽減するために泊まりを活用

1. 利用者の基本情報

世帯構成	夫婦のみの世帯				
介護力	主たる介護者は夫。常時介護可能				

要介護度	要介護 5						
障害高齢者の日常生活自立度	J 2	認知症高齢者の日常生活自立度			II a		
A D L	移動	食事	排泄	入浴	着替え		
	全介助	全介助	全介助	全介助	全介助		
主な傷病	・パーキンソン病　・四肢麻痺						
必要な医療処置	・腸ろう	・たんの吸引	・ネプライザー				
	・浣腸・摘便	・服薬管理	・リハビリテーション				
ターミナル期	ターミナル期ではない						
病状の安定性・悪化の可能性	・不安定・悪化の可能性あり ・誤嚥性肺炎により、入退院を繰り返している。						

2. サービス提供の状況～なじみの関係づくりからのスタート～

○利用開始の経緯とサービス提供パターン

- ・パーキンソン病が進行する中、手足が自由にならない上、コミュニケーション障害により伝えたいことを相手に理解してもらえないストレスより、感情的になることが多く、夫婦二人暮らしで介護を行う高齢の夫の負担は大きかった。
- ・吸引や胃ろうなど、医療依存度が高いため、他法人の居宅介護支援事業所から当事業所に紹介があり、利用がスタートした。
- ・当初、コミュニケーション障害より、事業所に馴染むことができず、サービス利用に対する本人の拒否は強かった。医療保険による訪問看護の提供と、通いを週に1回提供し、少しづつ職員との関係づくりを行うようにしていった。

○看護小規模多機能型居宅介護の利用効果

- ・通い、泊まり、訪問を馴染みの職員が対応することから、事業所にも慣れ、現在は、レスパイトの目的で、週に2回、泊まりを提供している。週に1回、訪問（介護）と訪問看護（同事業所：医療保険）を同時に提供し、介護者の負担を軽減することができている。
- ・看護小規模多機能型居宅介護は通い、泊まり、訪問を一体的に提供できることから、サービス利用の拒否の強い人との関係づくりが行いやすく、必要なサービスの利用を促進することができる。

※利用半年後のサービス提供状況